

サステイナブルスクールの先生に会いに行こう！

Vol. 1



サステイナブルスクールには、子どもたちとともに持続可能な未来に向けて行動する先生の存在が欠かせません。学校自体の変革にも先生方の存在が大きく関わっています。そんなサステイナブルスクールの先生へ、今回根掘り葉掘りいろんなことを聞いてみました。先生方の原動力はどこからきているのでしょうか？



福山市立福山中・高等学校／広島県

上山 晋平

KAMIYAMA SHINPEI

ESDの視点で教育内容を明確化したのは、サステイナブルスクールに認定された年(2016年)になるかと思います。本校は、2004年に中学校を開校した併設型中高一貫校(現在15年目)です。開校以来「地域社会とグローバルな社会で活躍する人材を育成しよう」とさまざまな実践を積み重ね、開校時に設定した数値目標はほぼ達成することができました。その後、これからの社会で求められる資質・能力を育む教育内容を創造する方

■ 学校での役割について教えてください。

英語科、学級担任(高3)、教育研究部(ESD・総合担当主事)
ソフトテニス・ICC(英語)部顧問

■ 先生になった理由を教えてください。

先生になりたいと思った理由は大きく2つありました。1つは、父の影響です。父は中学校の保健体育の先生で、野球部の監督と生徒指導の担当を長く務めていました。その影響からか、我が家には中学生がよく遊びに来ていました(当時「つっぱり」と呼ばれていた人もたくさん)。彼らは幼かった私を祭りや釣りに連れて行ってくれました。多くの中学生に慕われている父を見て格好いいなあと思ったのが1つ目の理由です。2つ目は、私自身大勢の人と何かをするのが好きだったからです。小学生のときは自宅の裏庭に野球チームを結成して毎週練習したり宿題の勉強会を主催したりしていました。大学では日本と留学先のオーストラリアの大学の両方でクラブ代表を務め、オーストラリアでは現地大使館などと協力してイベントを催したりして大学からNo.1クラブ賞をいただいたりするなど、集団で何かをするのがとても好きだったようです。

■ 福山中・高等学校とESDとの出会いを教えてください。

法を校内で議論した結果、ESDの観点で行うことが最もふさわしいとの結論に達し、2016年にユネスコスクール申請及びサステイナブルスクールの応募となったわけです。これまでの実践を整理した結果、「3つのプロジェクト」(地域課題解決、国際課題解決、生き方・在り方)に収束でき、この路線でESDを推進しています。2018年度はさらに全教科でSDGsを意識した活動に取り組んでいます(今年度末には実践集が完成します)。

■ 上山先生とESDとの出会いについても教えてください。

教員になる前からボランティア活動や自然体験活動に興味があってそれらの活動に関わっていました(レクレーション・インストラクター、キャンプ・インストラクターとして)。その流れから自然にESDに出会い、研修会に出かけたり、書籍を買ったりしてはいましたが、本格的な実践・研究の対象としてESDに向き合ったのは、これもサステイナブルスクールに応募した

年になると思います。向井校長から、「今後の学校の方向性を考えるうえで、教育内容を新たに増やすのではなく、これまでの豊富な実践を整理・構造化することでESDの実践につながれないか」と相談がありました。中・高すべての教育活動を洗い出すと同時に、必死にESDについて学んだことを整理することで、本校独自の3つのプロジェクトの誕生につながりました。



■ 上山先生が日々大切にしていることを教えてください。

生徒には大学入試だけでなく、その先の社会や実生活でも活躍して充実した人生を送ってほしいと心から願って教育活動にあたっています。そのキーワードとしてクラスなどでよく伝えているのは、「自立」「協働」「貢献」の3つの言葉です。いろいろな場面で「自分のこと」だけでなく、「人とのこと」や「集団（組織）への貢献」を意識して活動すると、学校や社会や仕事で役立つ考え方や力を身につけやすいと考えています。現在の大学入試制度における関門を突破する力を養いつつも、それだけでなく、その先のさらに長い人生でも活躍できる資質・能力の育成を見据えた教育活動ができたらと思っています。

■ 上山先生の目指す未来はどのような未来ですか？将来どんな社会に生きていたいのですか。

未来予測の本や官公庁の資料でよく書かれているように、今後は生活の隅々にまで AI が入った時代になるのは間違いないでしょう。そうになると、現在のスマホ以上に生活を便利にする道具に囲まれる一方で、人とのつながりがさらに貴重で重視される社会がやってくると思います。ここで少し、そのような時代における学校の役割を考えてみたいと思います。学校はきっと、ICT を用いた個人での教科学習や調べ学習というレベルだけでなく、個人のスキルを高めつつ他者とのプロジェクトや探究型の活動を通して、多様な人（異年齢や外国人、遠く離れた人を含む）と協働

しながらリアルな社会とつながって、社会性や創造性を学ぶ場になっていくのではと思います。また学校の役割も、学校以外の場所、たとえば公民館や市役所、大学、幼稚園、病院、企業といった外の社会とつながり、その中心的な役割を果たすようになると思います（ラーニング・センターの役割）。私は、このように先生や学校の役割が広がることに、とてもワクワクします。どのような時代が来ようとも彼らの未来を支える役を担いたいと思いますし、今の ESD の取り組みもそこにつながっているのだと思います。

■ 「サステナブルスクールの先生に会いに行こう！」を手にされるすべての方々にメッセージをお願いします。

本誌を読まれている方々は、すでに「ご自身や学校や世界をより良くしていこう」と考えていらっしゃると思います。現在は時代の大きな転換期です。言わば、「刀の時代から鉄砲の時代へ」「馬車から車の時代へ」「鉄道から飛行機の時代へ」と同じくらいに大きな変わり目だと思います。変化は容易ではないですが、「不

易と流行」「変化は進化」と信じて、皆さんと一緒に ESD や SDGs という言葉でつながり、考え方や取り組み方を一歩ずつ前進させられたらと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



事業開始の背景

国連持続可能な開発のための教育の10年（以下、国連ESDの10年）の最終年となる2014年11月に、日本政府とユネスコの共催により、愛知県名古屋市および岡山県岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開かれました。その会議において、国連ESDの10年の後継目標として「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が発表され、同年第69回国連総会にて採択されました。ユネスコ主導の下、2015年から2019年までの5年間、ESDはこのGAPに基づいて推進されています。

また、国内に目を向けると、日本ユネスコ国内委員会に設置されたESD特別分科会が「国連ESDの10年」の成果と課題を整理し、平成27年8月に「持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて」と題する報告

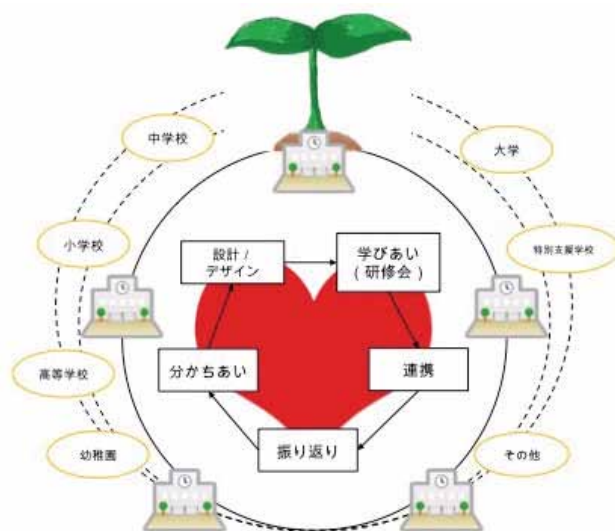
書を取りまとめました。報告では、今後のESD推進方策として、ESD普及のための取組と並行してESDを深化させる（実践力を高める）ための取組の強化がうたわれています。学校全体で、また他校や地域との連携も視野に入れて活動を実践し、持続可能な未来の実現に向け、教育を通じて一人ひとりが変容していくことが期待されています。

このような経緯を受け、日本におけるユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、文部科学省より「平成28年度日本 / ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、ESD重点校形成事業を実施することとなりました。平成30年度からは「ESDの深化による地域のSDGs推進事業」と名前を改め、補助事業として活動を進めています。

ESD重点校形成事業とは？



ESD重点校形成事業は、教育を通じて持続可能な社会を構築するために、実践的な取組を行う意欲のある学校を公募・選定し、その取組を発展および深化させるために必要な支援をする事業です。学びあい（研修会）→連携→振り返り→分かちあい→設計／デザインのサイクルを繰り返すことにより、重点校（以下、サステナブルスクール）に留まらず、ESDの活動を広げつなげていきます。



サステナブルスクール形成の目的

1. 本事業の支援を受けて、サステナブルスクールが事業に関わるすべての人に学びをもたらす活動を展開し、自らの思考・行動の変容によって成長すること
2. 他のサステナブルスクールの成果を自校の取組に生かし、サステナブルスクール同士も連携しながら多面的な魅力を持つ学校へ発展すること
3. サステナブルスクールが本事業の支援を受けてESD実践校として自立し、周辺の他の学校や地域・家庭を先導してESDの深化に寄与すること
4. サステナブルスクールの寄与によりESDが教育現場そして地域社会に根付き、持続可能な社会を構築していくこと
5. 加えて、その活動を世界へ向けて発信し、国際的に展開していくこと

関連資料のご紹介

※ 送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。

「ひと目でわかるESD 推進事業ガイド」

本冊子は、ACCU がユネスコスクール事務局として実施する ESD 推進事業を一冊にまとめたものです。ESD に対して十分な理解があり活動を深化していきたい方、ESD に関心はあるけれどもどのように活動をはじめたらよいかわからない方など ESD に関わっている全ての方が活動を始める第一歩を踏み出すことができるようになる一冊となっています。

この一冊を通して、皆様に出会えることを楽しみにしております。



(日・英)

「キラリ発進！サステナブルスクールーホールスクールで描く未来の学校」

本冊子は、平成 28 年度及び平成 29 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業として文部科学省から委託を受け実施した ESD 重点校形成事業の制作物です。通称サステナブルスクールとして認定されている 24 校、各校の取組や本事業の軸となっているホールスクールアプローチについてまとめています。

この一冊を通して、「新しい学び」が全国に広がっていくことを心より願っています。



Vol.1 / 2017 (日)



Vol.2 / 2018 (日)

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) について

ACCU は、ユネスコ (UNESCO, 国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971 年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア・太平洋地域諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行っています。

現在、文部科学省より委託を受け、ユネスコスクール事務局としてユネスコスクール加盟時、加盟後の支援をおこなっています。

〈 お問い合わせ先 〉



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32-7F 出版クラブビル
TEL : 03-5577-2852 FAX : 03-5577-2854
E-mail : webmaster@accu.or.jp URL : <http://www.accu.or.jp>